八中1年人権だより

徳島市 八万中学校
１年生　第６号
2022年７月４日
編集・文責 吉成正士

そのメッセージ，送っていい？

■酒井　晴生さん　私の身近な人に障害者はいません。なので，私ももっと障害者について考え，障害者を見つけたらサポートできたらいいなと思いました。

西　　佑太さん　ネット差別も，いじめと同様にとても身近にあり，いつの間にかやってしまってたりすることもあります。なので，LINEとかでも，本当にそのメッセージを送っていいのか考えてから送ろうと思います。

田中　美結さん　今の生活はとても当たり前ではなく，私たちの生活はとても幸せなんだと思いました。なのでこれから，物や勉強を大切にしていきたいです。

中村穂乃叶さん　日本の同性愛の考え方はとても古い！日本も新しい考え方になり，はっぴーな恋愛ライフを!!

宮本　風香さん　友達の小さなSOSに気づき，友達の相談に乗ったり，先生に言ったりする！

西川承太朗さん　一人で悩みを抱えるのが一番苦しい。自分が悩みを打ち明けられる人をさがす！大切なのは人に悩みを打ち明けること！　（1組生徒）

「送信する前に読み返す」。大事なことですが，同時に，自分は書き込まなくても，コメントに同調したり，あおりに乗っかってしまって，書き込んだ人をエスカレートさせてしまうことがあります。気がつけば，「炎上」なんてことにもなりかねません。かといって，書き込みがエスカレートしないように注意でもしようものなら，一段とエスカレートし，火に油を注ぐようなことにもなりかねません。そしてそれが，書き込んだ人の狙いだったりすることもあります。

ではどうするのか？

現段階では，法的に規制され，罰を受けるのを待つしかないのかもしれません。

何もできることはないのか？

そうは思いません。そうならないように，リアルな世界でのつながりを大切にしていけばどうでしょうか。身近なことにしかなりませんが，せめて身近なところでも，そうならないような人づくり，関係づくりをしていけば，そこだけは防ぐことができそうな気がします。そしてその輪が広がっていけば，少しは変えられるのではないかと思います。

選ぶのは本人

■私は今日，人権作文発表会に参加して，たくさんの人の意見を聞くことができました。6人の発表の内容はみんな違っていて，一人一人の思ったことが発表されていました。

一人目の酒井さんの発表を聞いて，酒井さんは自分の経験から考えて，これからの生活に生かそうとしていました。世界には車いすに乗っている人，目の不自由な人，手足の不自由な人などの障害を持っている人はたくさんいて，差別で苦しめられている人もたくさんいることを知りました。

二人目の西さんのインターネットについての発表を聞いて，便利なインターネットも，使い方を間違えれば人を傷つけ，最悪の場合，自殺に追い込んでしまうときもあります。発表の中にあった「インターネットに人が嫌がるようなことは書かない」簡単だけど，すごく大切だと思いました。

三人目の田中さんの意見を聞いて，私たちは学校に行って勉強するのが当たり前でも，したくても勉強できない人は世界にたくさんいることを実感しました。

6人の発表を聞いて，たくさんの勉強になりました。6人のみんなが言っていた通り，身近なところに差別があって，小さな差別から解決していくことが大切だとあらためて感じました。これからはまわりのことを考えて，日常の生活を見直して，身近な差別，小さな差別から減らしていきたいです。　（1組生徒）

人はよく，物事を大枠（おおわく）で見て判断し，決めつけてしまうことがあります。私にもあります。

部落差別をするとき，偏見に満ちたまなざしで，「部落の人は～だ」と，勝手な思い込みや決めつけをします。もっと身近なところで言えば，「八万中学校の人は～だ」と，勝手なことを言われたら，みなさんはどう感じるでしょうか？それが悪いことでも，良いことでも，「ちょっと違うんだけどなぁ」とか，「私はそうじゃないんだけど」と思うのではないでしょうか。

障がいのある人だってそれと同じです。私たちの生きている社会の方にたくさんの障がいがある以上，特別扱いを受ける必要があります。でもそれは当事者本人が決めることであって，「障がいのある人は～だから」と判断するのは，その時点で，大枠で見て判断し，決めつけているというものです。

まずはよく見ること。何もしない方がいいというのではありません。よく見て，必要そうであれば本人に尋ねることです。英語で言えば，「May I help you?」（お手伝いしましょうか？）といったところでしょうか。それで，「No,Thank you」（いいえ，構いません）と言われれば，素直に引き下がればいいだけです。そこで，「私がこんなに親切で声をかけてるのに」と，怒る必要もありません。本人の努力を温かく見守ればいいのだと思います。私も気をつけて生きていきたいと思います。

児童労働，識字学級，夜間中学

■私は今回の人権作文発表会で，「考え，行動に移すこと」の大切さを学びました。6人の方たちが言っていて一番強く感じたのもこれです。そして，いろいろな人の個性・価値観を大切にしようと思いました。ただ，考えるだけでは何も周りは変わらないけど，行動に移すことで，誰かが喜んでくれたり，救われたりするからです。

そして，中村さんの発表から，自由に人と関われることの大切さを学びました。人はみんな違って，違うからこそ学べて，違うからこそ楽しいと思いました。でも，違

ってはいけないこともあると思いました。それは，田中さんが発表してくれた児童労働です。
　児童労働はあってはいけないことだと思います。子どものとき児童労働をしていた大人が，それが当たり前だと思い，大人になってさせる側になる，こんな負の連鎖は，今すぐ断ち切らないといけないと考えました。そして，学校に行ける喜び，友達としゃべって当たり前のように給食が食べられる，そんな当たり前に，もっと感謝しようと思いました。そして周りの人を大切にして，周りの友達や家族が何でも相談し合える，そんな関係を築いていこうと思いました。　（3組生徒）

　行動に移すことの大切さをを学んだなら，中学生集会に行きましょう！中学生集会がすべてではありませんが，本当にそう思うなら，行ってもいいんじゃないでしょうか。
　児童労働は，１００年前の日本でも当たり前にあった光景です。差別による経済的な貧困で，様々な被差別の子どもたちが，働かなければ生きていけませんでした。子守りをしたり，日雇(ひやと)いの仕事をしたりして生活費を稼(かせ)いでいた現実がありました。もちろん学校には行けません。たまに行っても，勉強が分かるわけありませんでした。友達とも仲良くできなかったので，さらに学校に行きづらくなります。でもその結果，進学や就職は不利になり，収入の限られた仕事にしか就けないことも当たり前にありました。仮に好きな人ができて子どもができ，新しい家族ができたとしても，家計に余裕はなく，子どもに十分な教育費をかけることもできませんでした。つまり，負の連鎖(れんさ)です。よく，「本人の努力がたりないから」と言う人がいます。でも，そもそもスタートラインが違っていて，ずーっと後ろからスタートしなければならない立場に立って考えれば，そんなひどいことは言えないのではないかと思います。
　また，学ぶことができないままおじいちゃんやおばあちゃんになった人が，あらためて学び直しをする場として，「識字学級」というものもありました。字の通り，「字」を学ぶことを通して，世の中の差別，社会の矛盾について学び，自分が生きてきた人生の誇りを取り戻す場所です。徳島市内にもあります。
　１年前にできた「夜間中学校」と言われるしらさぎ中学校も，その一つです。中学校は義務教育ですから，本来行っているはずです。でも，先に述べたように，児童労働で行けなかったお年寄りもいます。現代では不登校で行けなかった人もいます。外国籍で，日本語が不十分な人も，今の時代，日本にはたくさんいます。様々な人が，「学び直しをする場」として，活用しています。みなさんも知っておいてください。ちなみに，夜間中学校を舞台にした「学校」という映画があって，私は大変感銘(かんめい)を受けたものです。
　素敵な言葉を述べる人や，感動的な言葉で胸震わせる人は，これまでもたくさん見てきました。それはそれで，嘘偽(うそいつわ)りない本心なのでしょう。でも，残念ながら，その一瞬で終わることがほとんどのように感じます。そのときは真剣に考え，自分なりの思いを自分の言葉で表すのですが，それが「その時だけ」になってしまう。続かないのです。そこがもったいない。そう思います。いろんなことが考えられ，素敵な感性で自分なりの表現ができる。その力をもっと伸ばすことができたなら，と本当に思います。
　中学生集会の本大会は７月２４日です。〆切りは７月１５日です。全クラスからの参加，待っています。

過去に学び，今を生きる

■人権作文発表会を通して，一人一人考え方は違うし価値観も違うということを知った。障害者の姉を持つ人の話を聞いて，特別扱いをされたくない人がいれば，そうでない人もいるということを聞き，一人一人意見は違って，それに気づいてあげることも大切だと思った。
　児童労働については，当たり前の価値観は人それぞれ違うし，その意見を認め合うことが大事だということを聞いて，私はそんなことをまったく思っていなかったのでビックリした。
　コロナの差別については，私もコロナだけで差別やいじめが起こると思っていなかったし，それは身近なことでもあるなと気づかされました。みんなが差別に対して反対の意見を意識して持つことの大切さが分かりました。
　いじめや暴力を受けた人の話では，実際に経験したから，人に寄り添って相談に乗ってあげたいとありましたが，いじめや暴力をされたなどというつらい過去を勇気を振り絞って発表していて，素敵だと思った。
　同性恋愛については，魂の話がよく頭に残っている。お話をしてくれた子のようなポジティブで，みんなを認め合えることは素敵だと発表会に参加して感じました。
（3組生徒）

　新型コロナウイルスがはやり始めたとき，「これは差別になっていくかも」と感じました。それは，ハンセン病に対する差別を学んでいたからだと思います。
　「こんな学習したって意味がない」とか，「どうせ差別なんかなくならない」と言って，この学習を避ける人，あまり重視しない人がいますが，愚かだなと思います。過去から学ばない者は，同じ過ちを繰り返します。何度も何度も。それだけ，人権学習を重視していない結果だと思います。自分の身を守るための人権意識は高まってきていると思いますが，それが他人や周りの人も守る，広い意味での学習とはなっておらず，より意欲的に学ぼうとする人権意識の高まりにはなっていないように感じます。「人権は大切だとは思うけど，人権集会は遠慮しとく」というのも，その表れの一つだと思います。つまり，表向き「人権は大切」と言うけれど，ちょっと自分の近い所にやってくると，「それはちょっと」と，腰が引けるわけです。これが本音ではないでしょうか。そこを突き破っていくことが，本当に人権意識を高めることにつながっていくように思います。まだまだこれからです。

　人権作文発表会についての人権だよりはこれで終わりです。さて，もうすぐ夏休み。私から一つ，夏休みの宿題を出します。
　毎年，「新聞切り抜きコンクール」というのがあるのですが，それに１年生で出品しようと思います。２種類のお題のどちらかを選んでください。一つは特別部門で「平和と戦争」。もう一つは中学生部門で，私からのお題として，「人権と差別に関すること」とします。今から気になる新聞記事をとっておいて，チラシの例のように，新聞記者になったつもりで，自分だけの記事を書いて提出してください。どんな作品が仕上がってくるのか，楽しみにしています。